

2020（令和2）年度
自己点検・評価報告書

2021（令和3）年12月
聖マリア学院大学

巻 頭 言

聖マリア学院大学では、教育研究水準の維持・向上を図り、本学の理念、目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施しています。

令和2年度の取り組みに関しては、以下の内容を中心に自己点検・評価を実施いたしました。

1. 分野別認証評価（日本看護学教育評価機構）の評価項目に基づく評価
2. 中長期計画の進捗状況確認及び取組評価

「分野別認証評価（日本看護学教育評価機構）の評価項目に基づく評価」については、昨年度、令和元年度末時点の取組状況として点検・評価を実施しました。その結果、取組が不足すると判断した内容に関し、令和2年度における取組状況について点検・評価を行いました。

「中期計画に基づく進捗状況確認及び取組評価」に関しては、本学では、令和2年度から令和6年度までの第4次5カ年計画を定めており、その初年度となる令和2年度の取組状況を点検評価、進捗状況を確認し、その結果を踏まえ令和3年度事業計画を策定いたしました。

上記を踏まえ、中期計画の5つの重点項目である「教育の質向上」「学生支援策の充実」「入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進」「社会連携（地域貢献・国際交流）」「経営基盤・組織の強化」について、その取組状況及び取組に対する大学（自己点検・評価総括委員会）としての評価を報告いたします。

自己点検・評価は現状を把握することが最終目的ではなく、評価結果を踏まえ、より良い方向に改善していくことが重要であることは言うまでもありません。今回の自己点検・評価において、既に取り組を実施していると評価した項目に関してはより充実を、今後取り組むべきと評価した項目については改善に繋げることで、更なる教育研究水準の向上、学生支援の充実、社会貢献活動の推進への努力を重ねて参る所存です。

2021（令和3年）12月

聖マリア学院大学 自己点検・評価総括委員会

1. 教育の質向上

1-1. 令和2年度取組の概要

「教育の質向上」においては、本学の特徴と社会動向を踏まえた教育課程の再編成、教学マネジメント体制・組織的教育の展開の強化による学修者本位の教育への転換を計画の一つとして定めています。

教育課程の再編成に関しては、建学の精神に基づく「人格の成熟」「看護実践者としての成熟」を促すカリキュラム、「ケアの文化を創造できる看護者」の育成を目指し、令和4年度入学生からを対象とした3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）及びカリキュラムの検討を行いました。更に、カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の関連性を示した図）を作成し、今後の組織的教育の展開にも活用する予定です。

令和2年度の新たな取組として、教育改善を目的とした教員による教育課程評価アンケートの実施、学生・社会に対する教育の説明責任の観点から、学生による成績の異議申し立て制度の検討（令和3年度から実施）等を実施いたしました。

また、ICTを活用した新たな手法の導入による学生の主体的学びへの転換に関しても、中期計画の一つとして定めています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により教育方法の変更（遠隔授業と対面授業の併用）を余儀なくされましたが、遠隔授業に関するFDを開催するなど、コロナ禍においても教育の質向上を図るための取組を実施いたしました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業が主となりましたが、今後は、新型コロナ終息後も見据えたICT活用（遠隔授業の在り方を含む）について検討を継続してまいります。

1-2. 取組に関する学内評価

教育の質を向上させる取り組みについては、教育の質向上委員会を中心に計画され、実施結果の報告を受けて課題を明確化し、さらなる改善策につなげるというプロセスが継続的に実践されています。また、自己点検・評価総括委員会、教学マネジメント会議への報告から、大学全体の対応方針が決定され、教育の質保証に向けた組織的運営がなされています。令和4年度から施行予定である新カリキュラムでは、3つのポリシーおよびカリキュラムの検討を重ね、本学の建学の精神に基づいた看護者の育成を目指す教育案を具現化しました。また、新カリキュラムでは、ディプロマ・ポリシーと科目の関連性を示すカリキュラムマップの作成も行われており、更なる組織的・体系的な教育の強化が期待されます。なお、当面継続される現行カリキュラムにおいても同様にカリキュラムマップ等を作成し、組織的・体系的教育に繋げることが期待されます。

授業方法に関しては、コロナ禍においても学びを止めないことを目標に、早期に遠隔授業を促進するための経済的支援を実施し、ICTを活用した新たな手法の導入を試み、遠隔授業に関するFDを開催するなど教職員が連携し、組織をあげた柔軟な対応が行われました。これらの取り組みは教育の質向上に向けた授業方法の工夫の一つとして、今後も継続的に発展させることが望まれます。また、臨地実習は実践教育として重要な位置を占めますが、聖マリア病院の協力及び協同により、他大学においては実習が制限される事例が多

い期間においても実習を実現し、また、病棟への立ち入り制限がある環境下でも学びが得られるよう、学内実習との併用によるシミュレーション教育等、創意工夫を凝らした実習教育方法が試みられています。

なお、今後の感染状況によっては、対面以外の方法を組み合わせた実習教育の検討も望まれます。

2. 学生支援策の充実

2-1. 令和2年度取組の概要

「学生支援策の充実」に関しては、ひとりひとりの学生の個性と多様性に寄り添う支援を計画の一つとして定め、特に令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症が学生に様々な影響を及ぼす環境下、学生支援センター、チューター教員、事務職員等において、オンライン等も活用し、学修面・生活面・経済面など、各方面における支援を実施いたしました。また、真に支援が必要とする学生への適切な支援も中期計画の一つとして定め、その一つの取組として、障害学生支援体制の検討を行い、学生支援センター内に「インクルーシブ教育支援部門」を新設することに至りました。

2-2. 取組に関する学内評価

本学のミッションであるひとりひとりの学生に目を向け、個性と多様性に寄り添う支援はチューター制度を中心に実施され、継続されています。特に支援が必要な学生については、令和3年度からの「インクルーシブ教育支援部門」新設に向けた取り組みが行われ、さらに適切な支援が期待されます。コロナ禍では学生間の交流制限や多くの行事が中止となりましたが、オンラインでの交流会やキャリア講座など、補完する取り組みがなされました。課題は、オンライン下のグループ学修など、学生主体の自主的な活動促進、自宅学修を自律的に継続できる力を身に着けるための支援です。学生個人単位の経時的評価を取り入れ、良い取り組みを明るみにし、大学全体で支援方法を共有することが求められます。

主要なアウトカム評価の一つである看護師国家試験合格率向上への取組としては、学生支援センター（学修支援部門）やチューター等による各種支援が行われており、4年生の全国模試の偏差値は回を追うごとに上昇し、学力を身に着けることができる学生は多いといえますが、GPAが低い者と留年生からは合格に至らない学生も出ています。低学年次のGPAによって自己学修習慣が確立できていない学生を早期に把握し、学修習慣をつける支援が求められます。

3. 入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進

3-1. 令和2年度取組の概要

学生募集に関しては、オンラインを活用したオープンキャンパスの企画・実施、また、入試制度改革に関しては、過去の入試区分別の入学後成績、学籍異動状況等の分析を踏まえた入試選抜方法の検討を実施し、その方向性を決めました。また、より本学が求める学生が入学するよう、アドミッション・ポリシー、教育理念を踏まえた入試制度への改正に向けた検

討を開始いたしました。

3-2. 取組に関する学内評価

過去の入試区分別の入学後成績、学籍異動状況等の分析結果を根拠とした入試選抜方法の変更がなされましたが、さらに国家試験合否や GPA を加えた分析結果を行い、高校へフィードバックすることで、よりよい学生推薦につながる可能性があります。

4. 社会連携（地域貢献・国際交流）

4-1. 令和2年度取組の概要

「社会連携（地域貢献、国際交流）」においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に物理的な対外活動を伴う社会連携活動に関しては大幅な縮小、見直しが必要となりました。一方で、可能な措置（オンライン化等）により、一定の対応的活動は実施し、更にはコロナ禍における新たなニーズ（市保健所からの疫学調査への派遣、コミュニティーセンターでの感染予防セミナー等）への対応、また、新たな価値観での活動展開として、オンラインを活用した海外姉妹大学との積極的な学生間交流の企画等に着手いたしました。

4-2. 取組に関する学内評価

コロナ禍における地域貢献、国際交流は、物理的な対外活動を伴う社会連携活動の自粛を余儀なくされましたが、市保健所における疫学調査への派遣、コミュニティーセンターでの感染予防セミナー等、コロナ禍における新たな地域のニーズに対応した社会貢献活動がなされました。今後は、オンラインを活用した地域貢献や国際交流が期待されます。

5. 経営基盤・組織の強化

5-1. 令和2年度取組の概要

「経営基盤・組織の強化」においては、カトリック大学や看護大学の教職員として相応しい意識の醸成、経営環境の変化に対応するガバナンス機能の強化等を目標の一つとして定め、「回勅ラウダート・シ」をテーマとしたカトリック研修会、「新たな時代に求められる職員の役割」等をテーマとしたSD研修会を実施することで、教職員の意識向上に努めました。

また、健全な財政基盤の確立、キャンパス整備についても計画の一つとして定めましたが、令和2年度に関しては、新型コロナウイルス感染症対策（学生への遠隔授業環境支援費、学内感染症対策等）を優先した措置を行うこととし、上記に関しては、令和3年度以降の継続検討といたしました。

5-2. 取組に関する学内評価

以上の活動（5つの重点項目）を支える大学の構成員は、カトリック大学や看護大学の教職員として相応しい意識の醸成にむけ、「回勅ラウダート・シ」をテーマとしたカトリック研修会、「新たな時代に求められる職員の役割」等をテーマとしたSD研修会によって

個々の意識の向上が図られました。更なる組織の強化には、構成員間の協働体制が重要であり、全員が大学運営に携わっているという認識が持て、個々の職務満足度を高めることが期待されます。

なお、上記内容に関する取組詳細（中期計画及び中期計画の取組進捗状況）については、本学ホームページの情報公開のページ (<https://www.st-mary.ac.jp/disclosure/>) に掲載しています。